



AF 447 便の FDR および CVR 回収

1. 海底捜索 Phase 4 の成果

2009年6月1日にリオデジャネイロからパリに向かっていた AF447 便 (A330) がブラジル沖の大西洋で消息を絶ちました。この事故に関し、日乗連ニュース 34-71 では今年4月初旬に海底捜索 Phase 4 において機体の残骸が発見されたことをお伝えしました。この Phase は機体主要部の発見を目的とするもので、この時点で終了し、次の段階に移りました。

2. Phase 5 の作業

続いて機体または部品の引き上げを目指す Phase 5 に取りかかり、海底ケーブル敷設船を母船とする高能力の深海探査船 Remora 6000 が、アフリカ西岸のダカール港経由で、現場に向かいました。4月27日には Phase 5 最初の12時間の海底捜索でフライトレコーダー本体 (Chassis) を発見したと報じられました。しかし事故機のフライトレコーダー (FDR) は本体に記録部分 (Crash Survival Memory Unit : CSMU) と超音波発生部分がねじ止めされる構造で、FDR 記録部分とボイスレコーダー (CVR) は Phase 5 の初日には見つかりませんでした。

3. FDR 記録部分とボイスレコーダー (CVR) の発見および引き上げ

BEA (フランス事故調査委員会) は、5月1日 FDR の記録部分の引き上げに成功し、続いて CVR 全体、片側のエンジンを回収したと発表しました。

BEA (フランス事故調査委員会) 発表の写真を添付します。



<http://www.bea.aero/en/enquetes/flight.af.447/info01may2011.en.php>

<http://www.bea.aero/en/enquetes/flight.af.447/info03may2011.en.php>

4. データは取り出せるか

メーカーの発表している両データ記録部分の仕様では、深度 20,000 ft (6,096 m) で 30 日間記録を保持するとされています。関係者は、23 ヶ月の間 3,900 m の深海にあっても、両レコーダーの記録が残っている可能性が高いと、その解読に期待しています。

(裏面に続く)

